

評 価 の 観 点	評 定	
	A・B	C・D
① 学年段階に応じた学級の特性が考えられているか。	25校 (48%)	
② 話し合いの活動、係の活動、学級集会の活動の内容のおさえ方は適切であるか。	29校 (56%)	
③ 毎週の時間割りに位置付けられているか。	52校 (100%)	
④ 児童の自発的・自治的範囲が適切におさえられているか。	18校 (35%)	
⑤ 指導計画と実施計画が明らかにされているか。	12校 (23%)	
⑥ 施設、備品、予算が活動しやすい条件として用意されているか。	23校 (45%)	
⑦ 他の活動との関連が明らかにされているか。	22校 (43%)	
⑧ 記録や整理のしかたが考えられているか。	16校 (31%)	
⑨ 評価の計画が立てられているか。	5校 (10%)	

<考 察>

- ① 学年段階に応じた学級の特性が考えられているか。

議題の配当とも関連があるが、調査した52校の中で、議題をすべての学級会の時間に配当している学校が、半数以上もあった。それをそのまま学級会の議題として取り上げることが多いため、半数近くが学級の特性を生かしていくと解答したものと思われる。

自発的、自治的活動を目指す学級会活動の中で、学級の独自性が生かされなくては、目標に迫ることが難しいと思われる。

- ② 話し合いの活動、係の活動、学級集会の活動の内容のおさえ方は適切であるか。

各活動の内容のおさえ方はおおむね適切と思われるが、各活動の時間配分にはばらつきがみられ、特に集会活動は、低学年では学期2、3回、中学年では年間4、5回、高学年

は年間3、4回を目安としているが、それ以上実施している学校もみられた。

- ③ 毎週の時間割りに位置付けられているか。

どの学校も日課表に学級会と明示され、適宜の曜日に固定されているため100%という結果が出た。

しかし、グラフには表れていないが、年間の予定時数を35時間としている学校は、1校だけであった。その他の学校は、学級会と単位時間の学級指導を交互に実施しており、大部分は20時間程度であった。ここで留意しなければならないことは、20時間という範囲内で、いかに目標に迫るかということである。それぞれの学校、学級の実態に応じ、先生方の創意ある指導のもとに、少ない時間を有効に活用してほしいところである。

- ④ 児童の自発的、自治的範囲は適切におさえら